

「日々の理科」(第 1488 号) 2018 (H30), -8, -2

「宍道湖の月食」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

※本日の写真は、撮影者(米田酒造株式会社さま)の許可を得て掲載しています。

ホームページ <http://www.toyonoaki.com/>

先日 7 月 28 日の皆既月食は、西に月が沈む時間帯に起きる「月没帯食」という非常に珍しい現象だった。しかし、関東地方は天気が悪く、観望はほぼ不可能だった。関西や韓国ではよく見えたと聞いていた。

私の友人が、親戚の方(松江の酒造会社の方)が、ご自身のメールマガジンにすばらしい月食の写真を掲載しているという情報を寄せてくださった。それがこの写真である。解説も載っていた。



「宍道湖の名前の由来と言われるのが松江市宍道町です。松江市と出雲市との間の宍道湖の南岸に位置し、かつては水陸交通の要衝として栄え、町の中心部にあ

る八雲本陣という旧家がある。その面影を伝えています。現在では JR 西日本の豪華寝台列車『トワイライトエクスプレス瑞風』の停車として盛り上がりを見せています。7 月 28 日早朝、松江では皆既月食が見られました。それは月没直前に起こることということで、車で 3 分の宍道湖岸へ。宍道湖と言えば夕日ですが、月の入りもロマンチックです」

写真は、情景的で実にすばらしい。文章も秀逸で、写真への思いがよく伝わってくる。左の写真は午前 4 時 27 分頃撮影ということだ。当日、松江では皆既月食の開始が 4 時 30 分ちょうどなので、まさに始まる直前の一瞬である。月の左下がまだ少し明るいという事実も、よく表現されている写真だ。



2 枚目は 4 時 36 分頃の撮影ということである。すでに皆既に入っているが、日の出も近づいて、徐々に空が白んでいる。黎明の西の空に沈む、赤銅色の月・・・実にすばらしい眺めだったにちがいない。

写真の技術も卓越しているが、「この場所で、この時刻に、この構図で撮影できる」という勘がすばらしい。見習いたいと思った。